



YNU 横浜国立大学

持続可能なモビリティシステム研究拠点

Research Center for Sustainable Mobility System

モビリティ・デザインの実践

～実社会での協働を通じたオープン型専門人材の育成～

2023-02-02

横浜国立大学 特任准教授 / LocaliST(株) 代表取締役

有吉 亮

CONTENTS

1. 地域交流科目「モビリティ・デザインの実践」
2. 今年度のモビリティ・デザインの取り組みと成果
3. 総合知人材育成の可能性と課題

1. 地域交流科目「モビリティ・デザインの実践」

横浜国大 副専攻プログラム「地域交流科目」

- 横浜国大では、「教育」「経済」「経営」「理工」「都市」の各学部が連携し、異なる学問領域を横断して学べる副専攻プログラム「**地域交流科目**」を設置
- グローバルな視野で**地域課題を解決できる先端的かつ複合的な実践能力**を養う。

横浜国立大学 副専攻プログラム
Yokohama National University Undergraduate sub-major program

地域交流科目 履修案内 2022

"Local-exchange Subjects" 2022 Syllabus

YOKOHAMA

オリエンテーション
4月13日(水)・14日(木) 18時から YouTubeライブ
ライブの視聴は、後方にオンラインコメントで参加できます。
詳しくは下記のWebサイトからご確認ください。

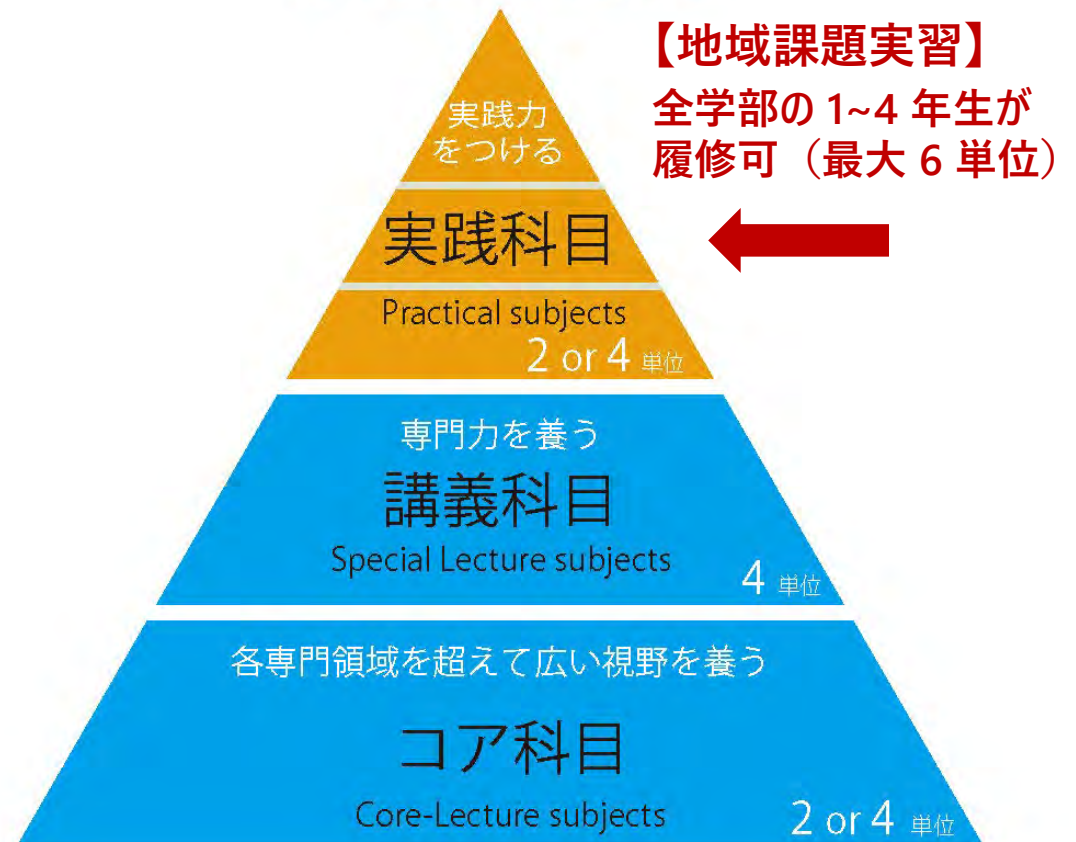
INFO サイト
<https://www.chiki-ct.info>

センター：メインサイト
<https://www.chiki-ct.ynu.ac.jp>

グローバルな視野をもって地域課題を解決する
先端的かつ複合的な**実践能力**を身につけるプログラム
This program trains students to solve local challenges
with a global perspective and acquire advanced, integral, practical skills.

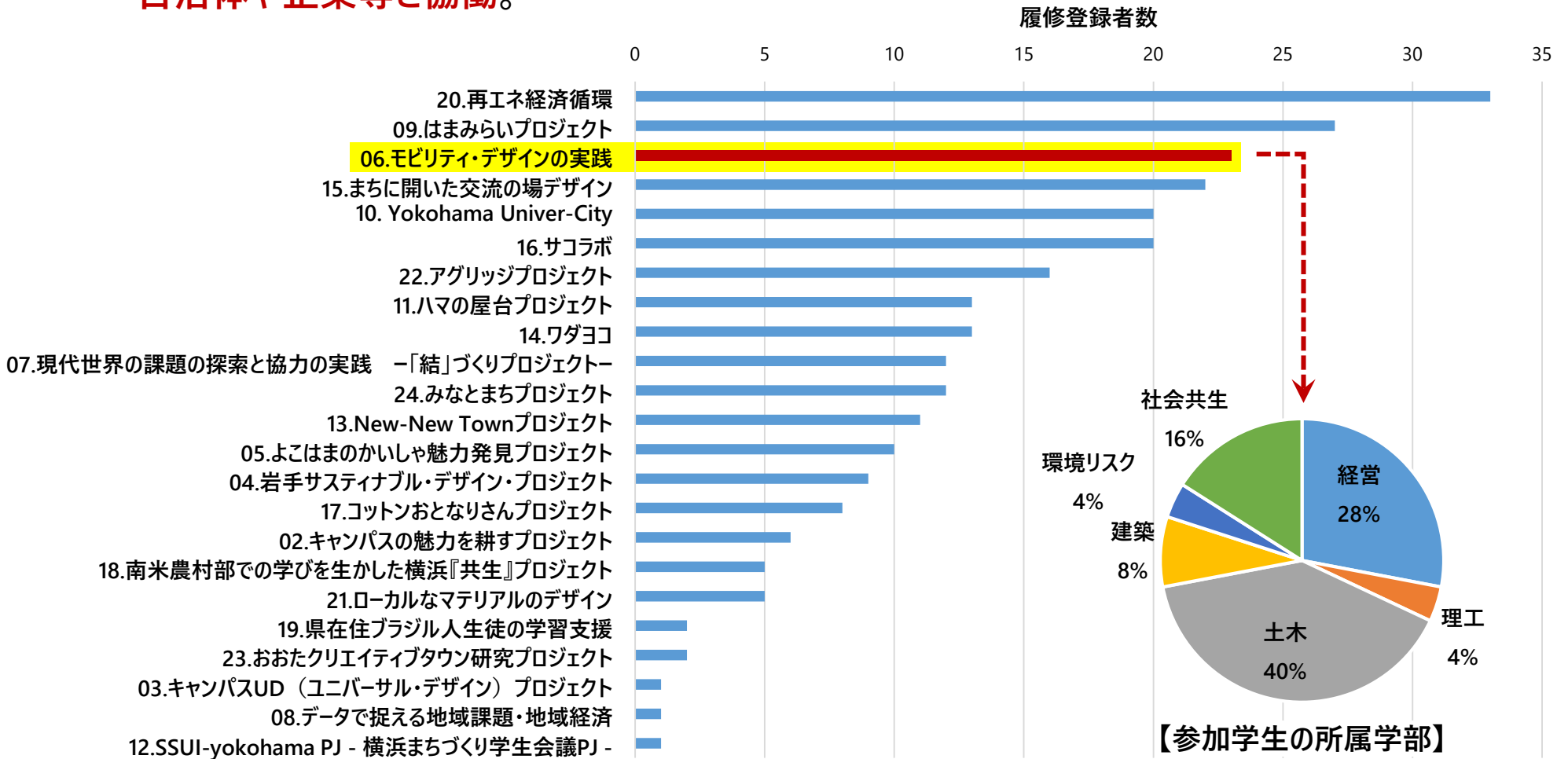
横浜国立大学 地域実証教育研究センター
YNU Global Local Education and Research Center

修了認定：計10単位



実践科目：地域課題実習『モビリティ・デザインの実践』

- 「モビリティ・デザインの実践」は、地域課題実習に設けられた **25 テーマのうち**の1つ
- 23名の多様な学部に属する大学1~4年生が、「移動しやすいまちの実現」に向けて自治体や企業等と協働。



モビリティ・デザインとは？

モビリティ ≠ 乗り物

モビリティ・デザインは「乗り物の設計や開発」ではない

モビリティ = (人の) 移動のしやすさ、移動可能性
capability to move

モビリティ・デザイン※とは、

人々が移動しやすい空間とその実現方策を描き出すこと

交通インフラや輸送技術だけでなく、人々の活動場所の位置関係とつながりを理解し、個人の身体や心の動きに対する洞察をもって、人が生活しやすいまちを形づくること。

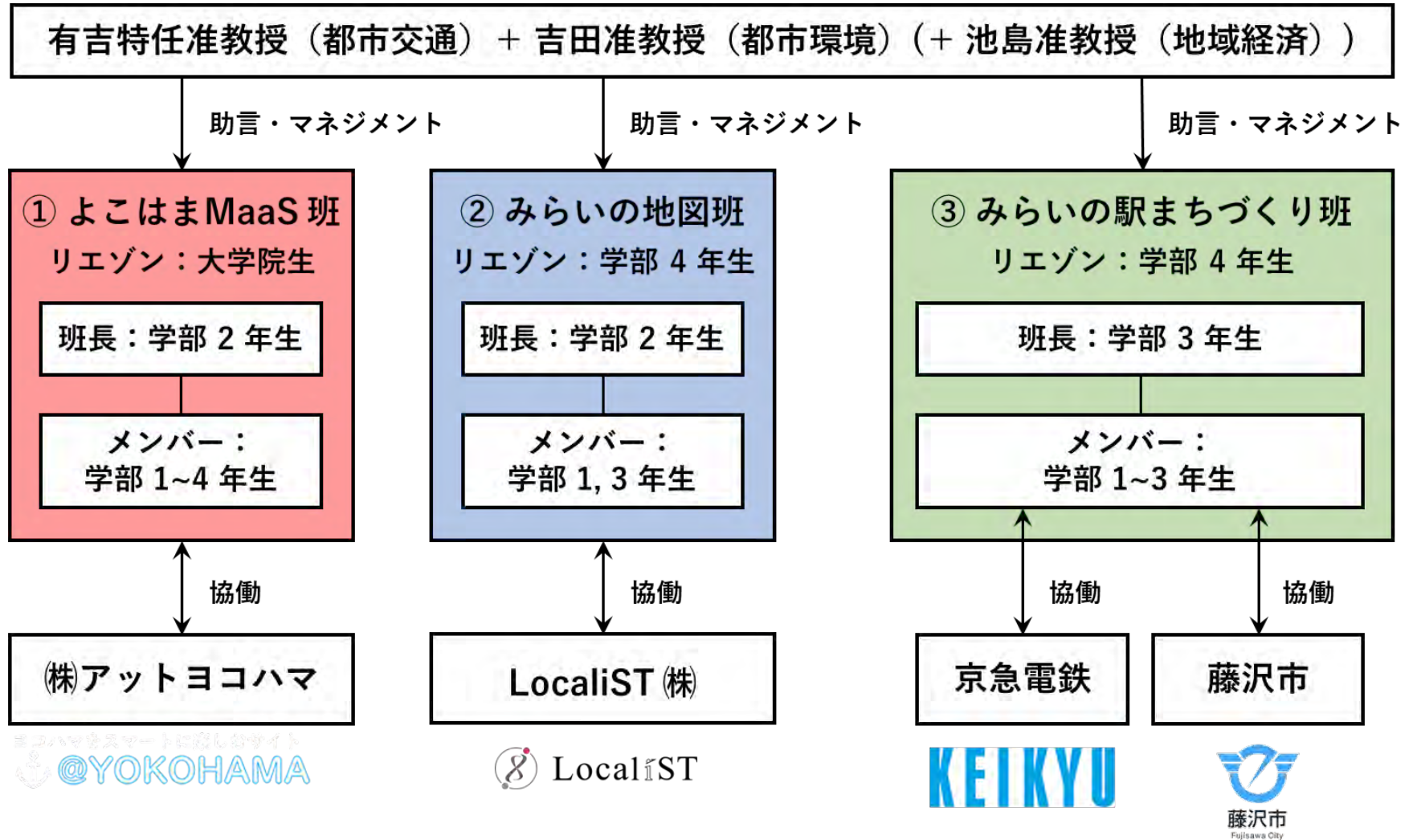
※ 元々は、恩師で元同僚の中村文彦先生（東京大 特任教授）が提唱した概念



中村文彦 著: 都市交通のモビリティ・デザイン,
(発行) サン・ネット, 2017年

『モビリティ・デザインの実践』プロジェクト推進体制

- 異なる専門分野の教員陣が協力してマネジメント。
- 大学職員として雇用された研究室学生がリエゾンを担う。



プロジェクトの進め方（2022 年度）

① 全体会合（5 月, 7 月, 10 月, 翌年 1 月）

参加者：全メンバー（横浜国大関係者）

目的：各班の進捗状況や成果の共有、事務連絡

② カウンターパート会合（月 1 回程度）

参加者：各班メンバー + **外部連携機関メンバー**

目的：プロジェクトの進捗報告、作業課題の確認と方針議論

③ ワーキンググループ（2 週に 1 回程度）

参加者：各班メンバー + サポート学生（+ 教員）

目的：作業課題への取り組み（調査、分析、資料作成など）

④ 中間成果発表会（11 月 25 日）

参加者：全メンバー（横浜国大関係者） + **全外部連携機関メンバー**

⑤ 最終成果発表会（2023 年 4 月中旬予定）

参加者：全メンバー（横浜国大関係者） + **全外部連携機関関係者** + 他の聴講希望者



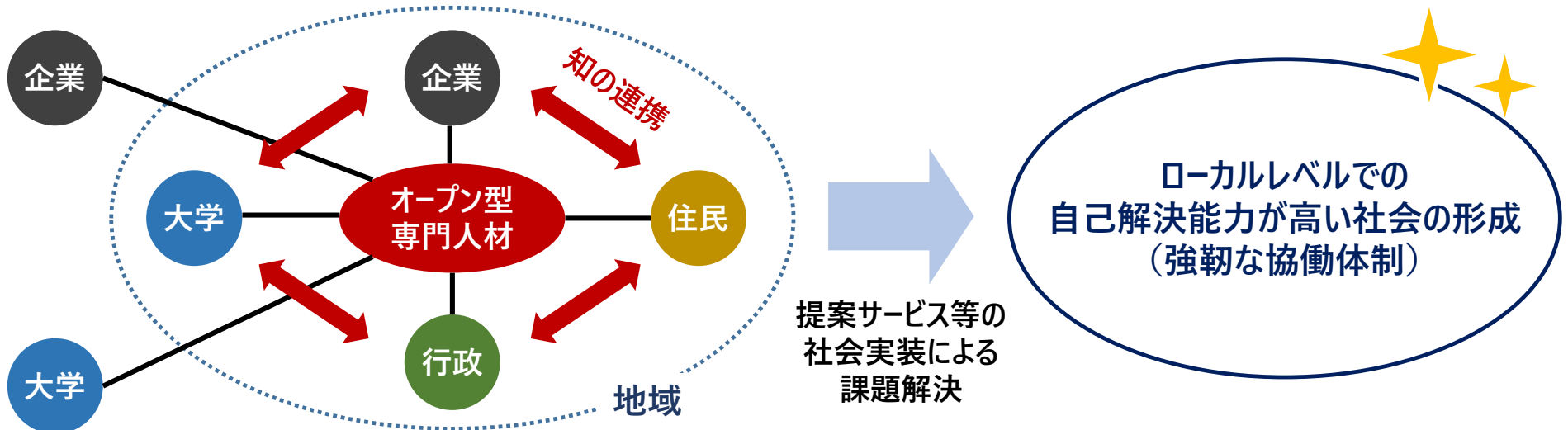
『モビリティ・デザインの実践』が目指すもの

● 人材の育成

- 自身の専門知を研鑽していくマインドと、他分野の知に勇気をもって踏み込み、取り入れるマインドを兼ね備えた「**オープン型専門人材**」を育成。
- 実社会における異分野の専門家との**協働を通じた「生きた知」のコミュニケーション**の蓄積を重視。

● 地域社会への貢献

- 地域の課題に対して地域で主体的に協働できる、**自己解決能力の高い社会**の形成を目指す。
- 全参加者の**異なる「知」の持ち寄りによる協働**を通じて、**社会課題解決のための活力**を創出。
- 単なる提案にとどまらず、それを**サービスや事業として社会実装**するための**産学官の「共創」**に、**責任を持って主体的に関わる**。（学生が代替わりしても、**活動が継承・発展していく体制**）



2. 今年度のモビリティ・デザインの取り組みと成果

取り組み①：MaaS でまちづくりチーム

ゴール

より多くの人々がヨコハマを楽しみ、好きになる。

対象エリア

横浜都心臨海部（みなとみらい、関内・関外、元町）

課題

対象エリアに訪れる人を増やし、来た人を楽しんで周遊してもらうための **MaaS* アプリ「my route」** の機能を提案し、それを実現する。

* **Mobility as a Service**: 移動に関する複数のサービスを一つに束ねるという考え方

カウンターパート (外部連携機関)

株式会社アットヨコハマ
(神奈川県内トヨタ自動車販売店連合)



● my route：マルチモーダル・モビリティサービス（アプリ）

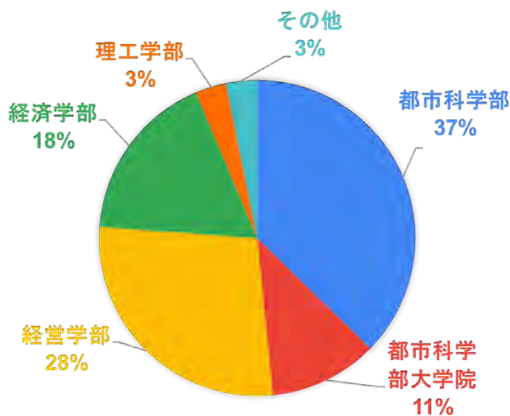
鉄道やバスなどの公共交通やタクシー、シェアサイクルなど、様々な移動手段を組み合わせたルート検索や、一部サービスの予約・決済のほか、店舗・イベント情報の検索も可能なサービス

● 便利な点

- 乗換案内の詳しさ
- 歩くスピードや人数を変更可能
- カーシェアやシェアサイクルなど、特殊なものも含めて検索できる

アクティビティと交通手段をパッケージにしたデジタルチケットの提案

- **my route の課題**：通勤利用がメイン。多様な世代にまちを楽しむ目的で使ってほしい。
→ **若い世代**が横浜都心臨海部を**楽しく周遊するためのアプリ**への進化を目指す。
- そのアプリが備えるべきものについて、横浜国大学生への**アンケート調査**を実施（N=128）
→ 料金設定や**ターゲット&ニーズの深掘り**といった課題が明らかに。
- **アクティビティと交通手段をパッケージにしたデジタルチケット**が有望との結論に至る。
→ アプリへの実装を目指す 8 つのコンテンツを提案し、うち **2 案を先行プロジェクト化**。



サンプル数：128

学生対象のアンケート調査
(アプリへのニーズ/ウォント)

①ランチとお茶の 組み合わせチケット

ターゲット広め
複数の飲食店を巡る
食券付きのチケット

②ベイスターズとの コラボチケット

横浜スタジアムを
訪れたファン向け
試合前後の観光・
食事を促すチケット

③マリノスとの コラボチケット

日産スタジアムを
訪れたファン向け
限定グッズなどが
手に入るチケット

④体験型アクティビティ チケット

新横浜のスケボー
広場でのレンタル・
スクール券がついた
チケット

⑤着物レンタル& 着付けチケット

都心臨海部を着物・
浴衣を着て巡る
チケット(歩きづらい
のでバス移動を促す)

⑥赤レンガのイベント とのコラボチケット

ストロベリーフェス
などでの買い物券が
付いたチケット

⑦うらない周遊 チケット

星占いのラッキー
アイテムやカラーに
なぞらえた複数の
アクティビティを
ランダムで購入

⑧YOKOHAMA SEE SEAチケット

横浜の海にまつわる
アクティビティの
セット券

「袴で横浜 思い出づくり」の商用サービス化（社会実装）が実現

- 和服レンタル業者、日本新聞博物館、地元飲食店とのコラボが実現し、卒業シーズン前に**袴で横浜を散策し、記念新聞を残し、デザートを食べる**、体験型周遊サービスがローンチ。
- 学生メンバーが地元企業と連携して**企画を立案し、PoC** を実施してサービス内容を具体化。



卒業旅行におすすめ!

袴で横浜 思い出づくり

2023. 2. 1 Wed. --- 3. 31 Fri. 月曜・祝日、3/13~3/21は除く
事前予約制

お一人様 **¥12,000**
袴・着付、袴一式レンタル・着付け、オリジナル新聞プレゼント、デザート＆ドリンクセット付



モビリティ・デザインのメンバーによる PoC の様子 (2022年12月2日)

袴一式レンタル&着付け。手ぶらでOK! ヘアセットはついていません。
(袴・着物のランクアップ無料、最大¥16,400相当)

- ・袴姿での写真入り オリジナル新聞プレゼント
- ・お祝いメッセージ付きデザート＆ドリンクセット付

- 3日前までにWEBで希望の日時のチケットを人数分購入
- 「横浜ハイカラきもの館」山下町店で特別お着替え
- ニュースパークに移動し オリジナル新聞づくり
- 馬車道十番館にてデザートセットをいただく
- 自由に横浜散策
- 17:00までに「横浜ハイカラきもの館」に戻り着替え

【着付け会場】
横浜ハイカラきもの館 山下町店
TEL 045-663-8108 (11:00~17:00 不定休)
みなとみらい線「日本大通り駅」徒歩3分

横浜ハイカラきもの館 WEB から 3 日前までにご予約ください www.shinnichiya.com/13452

発行 発行所 横浜ニュースパーク 編集長 山本 浩二 編集 山本 浩二 印刷 山本 浩二 発行日 2023年(令和5年) 3月10日(金曜日)

The Haikara Times

袴姿でハイカラ楽しむ

文明開化の地・横浜で 卒業に合わせ記念新聞

全国の前で撮影

「横浜二番物語」

「願いがかなうスポット!」

ニュースパーク 日本新聞博物館

取り組み②：みらいの地図チーム

ゴール

来訪者の不安や負担を軽減し、滞在者の快適や幸福を高める。

対象エリア

横浜国立大学キャンパスとその周辺

課題

利用者をワクワクさせるような新たな案内地図サービスをつくる。

カウンターパート
(外部連携機関)

LocaliST 株式会社
(横浜国大発の交通 & まちづくりコンサルタント)



横浜国立大学（YNU）、そして横浜（Yokohama）を対象地域として、皆様に賢い（Wise）案内地図アプリを目指したいとの思いからY's navi（ワイズナビ）という名前で、大学での活動をより魅力的にするサービスを提供します。

デジタルキャンパスマップ：Y's navi（ワイズナビ）のコンセプト

- 現行キャンパスマップ（紙地図）の課題
 - 学生・教職員が欲しいのは、**バス運行情報や弁当販売情報などの動的情報**。
 - キャンパスやキャンパスライフの**魅力をPRするための情報**が不足。
- 動的で対話的なデジタルキャンパスマップを、**学生 × 大学発ベンチャーで共同開発**
→ 学生が仕様を決め、基礎データを作成し、LocaliST (株) がプログラミング技術を提供

Y's naviの主な機能 ※2022年11月時点



Y's naviの特徴

学生が企画・開発・運営を行う地図

学生がY's naviの機能や仕様、方向性を決定し、必要な技術を株式会社LocaliST様からプログラミング支援を受けて開発

横浜国立大学とその周辺の情報に特化

大学内やその周辺地域で活動する学生団体と協働することで、大学周辺地域の情報に特化した地図サービス

日本初の“バス情報×学生活動”マップ

横浜国立大学の学生が欲しいと思う情報をスマホやパソコンからリアルタイムで取得できる

